

1. 件名：東京電力福島第一原子力発電所における豪雨時の建屋流入量への影響等に係る面談

2. 日時：令和2年1月28日（火） 14時00分～16時00分

3. 場所：東京大学柏キャンパス

4. 出席者

特定原子力施設監視・評価検討会 外部専門家

東京大学大学院 徳永教授

原子力規制庁

長官官房技術基盤グループ

核燃料廃棄物研究部門

青木技術研究調査官

原子力規制部

東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

澁谷企画調査官、佐藤係長

東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー 梶山バイスプレジデント

プロジェクト計画部 担当者11名

5. 要旨

○東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、以下の事項について、それぞれ資料に基づき説明を受けた。

- 2019年豪雨時における汚染水発生量（建屋流入量）について
- 1/2号機共用排気筒周辺サブドレン（SD）のトリチウム濃度について
- SDの設定水位が潮位以下となる場合の影響について
- 過去の特定原子力施設監視・評価検討会（以下「1F検討会」）に関する重要課題以外のコメント対応について

○原子力規制庁及び徳永教授から、以下の点について東京電力への指摘等を行った。

- 建屋滞留水に係る対策等については、廃炉作業の進捗等に応じて、柔軟な対応をとることが重要。
- 対策を講じる場合には、当該対策の廃炉作業全体の中での位置付けや、全体的なリソース等を勘案し、優先順位を付けて対応することが重要。
- 上記の対応をとる場合には、優先順位の根拠となるデータや考え方について、分かりやすい丁寧な説明を行うこと。
- 1F検討会における議論をより円滑に進めるため、（透明性を確保した上で）今後もこのような議題に係る詳細な補足説明があると良い。

○東京電力から、指摘事項については今後検討していく旨、回答があった。

○原子力規制庁から、1F 検討会における議論をより円滑に進めることについては、1F 検討会の事務局としても検討の上必要に応じて対応する旨コメントした。

6. 資料

- 各水位のトレンドと本日も説明のセクション
- 2019年豪雨時における汚染水発生量（建屋流入量）について
- 1/2号機排気筒周辺SD濃度の状況について
- SD設定水位の潮位以下となる影響について
- 過去の監視評価検討会に関する重要課題以外のコメント対応について